

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

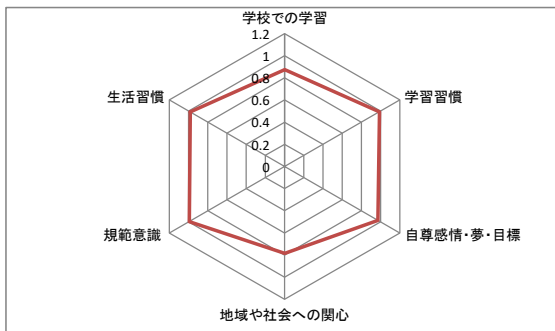
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国の正答率を下回っている問題は32問中17問で、上回っている問題は15問であった。(上回っている問題数の割合一約47%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文脈に即して漢字を正しく読む」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の問題については全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「目的に応じて文の成分や順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」「行書の基礎的な書き方を理解して書く」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」などの問題が課題となっている。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国の正答率を下回っている問題は9問中7問で、上回っている問題は2問であった。(上回っている問題数の割合一約22%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える」「相手に的確に伝わるように、あらずじを捉えて書く」の問題は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」等応用的な問題を苦手としている。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国の正答率を下回っている問題は36問中30問で、上回っている問題は6問であった。(上回っている問題数の割合一約16%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったを求める式を選ぶ」「1枚の硬貨を多数投げた時の表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ」の問題については全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	数と式・方程式の分野については、形式的な操作はできているが、その意味や理由までの理解に至っていない生徒が多い。また図形分野については、ある条件を満たす図形の性質の理解がやや浅い傾向がある。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国の正答率を下回っている問題は14問中12問で、上回っている問題は2問であった。(上回っている問題数の割合一約14%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く」が全国平均と同程度で、「通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する」は全国平均を少し上回っている。	
	努力が必要な問題	「数と式」以外の図形、関数、資料の活用分野において苦手意識を持った生徒が多い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国の正答率を下回っている問題は27問中17問で、上回っている問題は10問であった。(上回っている問題数の割合一約37%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「アルミニウムの原子の記号の表し方に関する問題」「無脊椎動物と軟体動物の体の特徴に関する知識問題」は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	科学的な思考を問う問題や記述式の問題に苦手意識を持った生徒が多い。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の夢や目標を持っていますか」「理科の授業内容はよくわかりますか」については全国平均を上回っている。これは教師が積極的に生徒と話す時間を確保して、互いの関係が良好であることあらわしている。</li> <li>・「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか」の割合が低い。また「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の割合がかなり低いので、改善が必要であると考えられる。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

1単元の授業の中で、「話し合う活動」を積極的に取り入れ、生徒が自分の意見を発表することができること、またそれを受容することができる学級づくりを目指す。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学習面では、全学年統一した「自学習ノート」の作成の検討、家庭学習を定着させるための取組、また、総合的な学習において地域人材を生かした交流活動を積極的に行う。